



GUIDE BOOK 2019

AC入試・特別入試

AC入試

p.01

国際科学
オリンピック
特別入試

p.04

国際
バカロレア
特別入試

p.07



筑波大学
University of Tsukuba

AC入試



- ✓ 自己推薦型（書類＋面接）の入試です。
- ✓ 自分で課題を見つけ、解決する能力を評価します。
- ✓ 現役生、過年度生、社会人。大学入学資格を持つ方を広く対象としています。

アドミッション・ポリシー

志願者の主体的で継続的な取り組み（最近2年間、又はそれ以上の長期間にわたるもの）から「問題解決能力」を評価します。この入試の合格者にふさわしい志願者がいないと判断した場合は、募集人員どおりに合格者を決定することはせずに、個別学力検査等（前期日程）の募集人員によって、その人員を充足します。以下の各学類・専門学群のアドミッション・ポリシーと併せて評価します（最新のアドミッション・ポリシーは学生募集要項で確認してください）。

自己推薦資料テーマ例

近年のAC入試で合格した先輩たちの自己推薦資料テーマです。AC入試は今まで行ってきた活動や研究に基づく自己推薦内容を評価する入試です。これらの例にとらわれず、思い切ってチャレンジしてみましょう。

第1次選考（書類審査）

次の書類を審査し、第1次選考合格者を決定します。

- 調査書
- 志願理由書・志願の理由を800字以内で所定の様式に記述してください。
- 自己推薦書：あなたがこれまで主体的に、そして継続的に取り組んできた活動や研究の内容をもとに、自分の「問題発見・解決能力」を提示してください。また、大学でどのように学びたいのかを具体的に記述してください。分量・様式は自由です。
- 自己推薦書の根拠となる資料：これまでの活動や研究の過程で生まれたレポートや作品、制作物、賞状や証明書、活動の過程を記録したノートなどのコピーや写真を、自己推薦書本文の内容を補完する資料として添付することができます。

第2次選考（面接・口述試験）

第1次選考の合格者に対し、30分程度の個別面接を実施します（必要に応じて延長される場合があります）。あなたが「自己推薦書」などで示したことを、あなた自身の言葉でさらに詳しく説明してください。また、大学で学びたいことについて、これまでの学習状況などについてもアピールしてください。

実施学群・学類	アドミッション・ポリシー	募集人員	自己推薦資料テーマ例
人文・文化学群	人文学類	5	<ul style="list-style-type: none"> ■ アメリカ英語の発音—一年間の留学経験から ■ アルザス史研究 ■ 鉱山産鉱物輸送・運搬の近代化—史学部活動の成果 ■ 大村家墓所の研究
	比較文化学類	5	<ul style="list-style-type: none"> ■ 人間と共生する自然—谷津田の可能性 ■ 海洋文化研究の取り組みとその成果発表 ■ 美術館におけるフィールドワークに基づく比較文化研究の試み ■ トイレの文化人類学—江戸時代の排泄文化の進化と崩壊
	日本語・日本文化学類	3	<ul style="list-style-type: none"> ■ 日本語オノマトペの性質について ■ 書道と将棋の関連—源兵衛清安の起源 ■ 日本文化の可能性—祭りと山車屋台から学ぶ「粋」 ■ 普通体を教える新しい日本語教師を目指して
生命環境学群	生物学類	3	<ul style="list-style-type: none"> ■ 金属還元細菌の発電機構の探求 ■ セミが羽化場所を決める要因に関する研究 ■ オオアメンボの水面波への応答について ■ ハタゴイソギンチャク刺胞射出の秘密
	生物資源学類	4	<ul style="list-style-type: none"> ■ ネジバナと根粒菌の共生関係に関する研究 ■ 微生物を利用したマンゴージュースの清澄化 ■ 微重力環境がトマトの成長と生活環に与える影響 ■ ピロロールの電解重合

実施学群・学類		アドミッション・ポリシー	募集人員	自己推薦資料テーマ例
生命環境学群	地球学類	高等学校において高度な基礎学力を身に付けた志願者から、地球環境や地球進化に強い好奇心を持ち、自ら設定したテーマに対して、創造的かつ問題解決志向で取り組む能力を持ち、それを表現する能力のある人材を選抜します。	2	<ul style="list-style-type: none"> ■ GISを用いたヒートアイランド現象の内部構造の解明 ■ 森林火災発生危険地域の把握のための新たな手法の開発 ■ ザクロ石の出現温度 ■ 水質汚染による環境破壊の課題と展望
	数学類	数学に対する強い好奇心を持続的に有していることを重視するとともに、独自に課題を設定し解決する能力および基礎学力を総合的に評価します。	2	<ul style="list-style-type: none"> ■ 整数論入門教科書の作成 ■ 整数環のidealにおける剰余類環を用いたオイラーの定理の精緻化 ■ ガウス整数上における二平方和の定理 ■ 非整数階微積分について
	物理学類	自然科学に対する持続的な強い関心、独自に問題を発見し解決する高い能力、物理学に関連する基礎学力、そして物理学への学習意欲を総合的に評価します。	2	<ul style="list-style-type: none"> ■ β線の速さの測定 ■ 炎の電気伝導性 ■ レーザー発振器の制作 ■ 彗星、超新星の観測
	化学類	化学及び関連事項に対する強い関心を持ち、独自に問題を発見し、明確な目標のもとに主体的に学習し、問題解決する高い能力を総合的に評価します。	2	<ul style="list-style-type: none"> ■ ポリアニリンの合成法の改良と活用 ■ 腐敗・発酵を利用した発電の研究 ■ シキミ酸全合成ルートの確立 ■ BZ反応の停止に関する研究
理工学群	工学システム学類	本人からアピールされた、今までの経験、ものに継続的に取り組む態度、数学・物理の基礎学力とその運用力、論理的な文章を作成する能力、コミュニケーション能力に基づいて、技術者になるという明確な目的意識、並びに、興味の深さと広さ、積極性、行動力、表現力を評価します。	8	<ul style="list-style-type: none"> ■ 騒音軽減装置の開発 ■ 小型無人ヘリコプターの自作と研究 ■ 変形式人型重機車両の開発 ■ ファンプロペラの表面加工による効率向上
	情報科学類	情報科学や情報技術、または関連する分野に強い関心を持ち、自ら研究課題と明確な目標を設定して問題の分析や解決を創造的に図る意欲と能力を有し、その過程と結果を論理的に説明することのできる人材を選抜します。	8	<ul style="list-style-type: none"> ■ 囲碁AIの負け方の異常性と人間との比較 ■ マイコンによる鉄道の運賃表示器作成とレンタルサーバ構築 ■ Twitter エゴサーチソフトの開発 ■ 画像と表計算を用いた運動解析ツールの開発
	情報メディア創成学類	コンテンツやネットワークメディアを支える情報メディアの科学と技術において、研究課題を自ら設定する創造性と意欲、課題を緻密に分析し創造的に解決する問題解決能力、その過程および結論を論理的に説明できる能力を総合的に評価します。	4	<ul style="list-style-type: none"> ■ フルート演奏における音響の定量的評価手法の研究 ■ オセロゲームプログラムにおけるAIの作成 ■ 中高生を対象とした社会問題啓発ウェブサイトのためのデザインの検討
	知識情報・図書館学類	社会における情報の伝達や知識の創造に関して幅広く興味を持ち、関連した課題を自ら発見し、分析・解決していく能力を評価します。課題の分析結果を論理的に説明することや、説得力のある提案ができることも評価します。	5	<ul style="list-style-type: none"> ■ 「気まずさ」を打開するための介入型ロボットの開発構想 ■ 江戸時代におけるメディア文化—貸本屋・講釈・講談 ■ 電子書籍・電子図書館の可能性を考える ■ 読み聞かせイベントの企画と実践
体育専門学群		<p>A（問題解決型）：ひとつの運動種目における優れた技能を重視し、自主的な実践活動における科学的知識の活用と論理的思考能力を多面的に評価します。</p> <p>B（競技力型）：抜群の運動技能を有し、日本代表として権威ある国際大会で活躍できる競技力を重点的に評価します。また、基礎学力と表現力についても総合的に評価します。</p>	12	<ul style="list-style-type: none"> ■ 理想の跳躍—助走、踏切、空中動作（棒高跳び） ■ メディカルケアとフィジカルトレーニング（長距離走） ■ センターとしてのスペース創出（ラグビー） ■ 着地（体操） ■ 基礎技術の段階的な向上過程（モダンダンス） ■ GKとしての問題解決（サッカー）
芸術専門学群		問題発見・解決能力、行動力などの一般的能力に加え、芸術の専門領域に関する意欲、資質を評価します。	5	<ul style="list-style-type: none"> ■ 秦国における「簡牘」と「小篆」の比較 ■ 留学・映画研究・漫画制作のイラストによる紹介 ■ 王鐸に関する研究—特に連綿に注目して



言語への純粋な興味から 少数民族語の存続に 関する研究へ

筑波大学大学院人文社会科学研究科
国際地域研究専攻2年
櫻間瑞希さん

■筑波大学人文・文化学群人文文学類卒業
■茨城県立取手松陽高等学校出身

自分の言葉で研究者にアピールできる絶好の入試

中 学時代から語学が好きで、英語はもちろん、ラジオの短波放送を聞いて興味を覚えた外国語を片っ端から独学で勉強していました。おかげで高校卒業までに英検1級を取得し、ロシア語もマスターできました。一般入試での進学を考えていましたが、高校3年生のときの担任からAC入試を紹介され、応募してみることに。合格するとは思っていなかったため、受験勉強の息抜きも兼ねて、楽しみながら出願書類をまとめた覚えがあります。

国際交流やボランティア活動などが盛んな学校だったため、それらの活動を振り返ると同時に、自分が苦労した経験から、当時はあまり充実していなかったロシア語の教科書を作りたいと訴えました。二次面接では、そんな私の夢に興味深く聞いてくれる先生方に囲まれ、自分の思いを自分の言葉で語れる喜びに感謝しながら、夢中になって話していたことを覚えています。試験が終わる頃には、こんなに充実した時間を過ごせるのは筑波大学しかないと思うようになっていました。

何が評価されたのか未だに不明ですが、高い語学力と試験官の前で物おじせずに話す態度が、大学での活動に期待したいと思ってもらえたのかもしれない。高校生が研究の世界の大先輩たちと話せる機会はそうはありませんから、夢を抱いてAC入試への挑戦を考えている人は、自分の言葉で思いっきり大風呂敷を広げてほしいと思います。



「国際タタール語・タタール文学オリンピック」にエントリー。3年連続で本大会に出場し、入賞→3位→優勝と実績をあげた。

上記のオリンピックで優勝したとき、タタールスタン共和国の大統領からいただいた民族衣装。



タタール語との出会いから留学、研究者の道へ

入 学後の勉強は、想像以上に刺激的でした。言語一辺倒では視野が狭くなると考え、医学や数学など人文系ではない分野や、学際系の科目などを履修しましたが、他の学類の人たちと話していると、ものの見方や論文の読み込み方などがまるで違うことに気づかされます。総合大学ならではの良さであり、こうして幅広い視点を獲得できたことが私の財産になりました。

学生時代の一番大きな「事件」は、タタール人学生との出会いです。ウズベキスタンからの留学生だった彼女は、タタール人なのにタタール語が話せず、アイデンティティ・クライシスと戦っていました。自分の民族の言葉を話せないという事実で強く興味を惹かれたことから、ウズベキスタンの大学に留学し、そこで暮らすタタール人の言語状況を調査することにしました。留学先ではロシア語ではなく、実際にはウズベク語でしか授業が行われていなかったため、ウズベク語とタタール語を覚えながら、調査研究を行うことになりました。それまでの支配言語であるロシア語と、現在のウズベキスタンの国家語であるウズベク語、自分たちの民族言語であるタタール語が、世代や教育によってどう浸透しているのかを100人以上に聞き取り、言語政策と合わせて、タタール語の言語状況を明らかにしました。

この留学を機に、少数民族が自分たちの民族言語をどのように継承していくかを調べる社会言語学的な研究のおもしろさに目覚め、大学院進学後は、ウズベキスタンの隣国カザフスタンに暮らすタタール人のタタール語の言語状況を調べ、修士論文で両者の比較研究まで範囲を広げました。

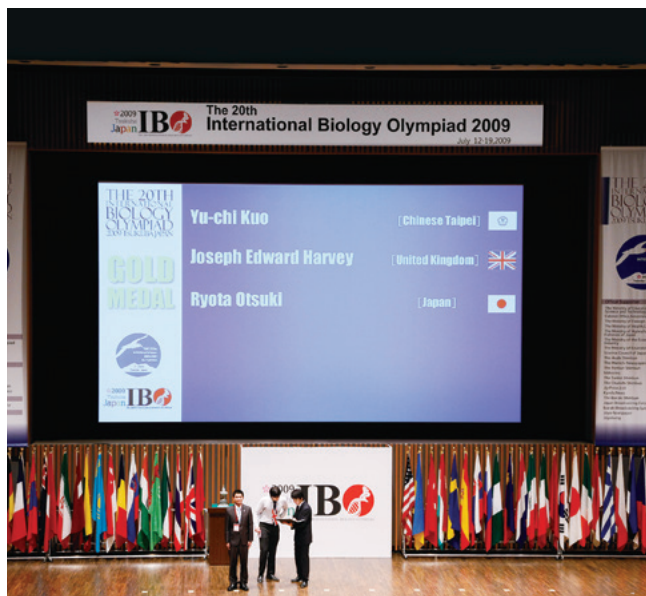
少数民族語を存続させるためのモデルケースを提唱したい

こ れらの研究を通して、少数民族の言語や文化を継承していく取り組みに強く興味を覚えるようになりました。博士課程に進んだら、世界中に分布するタタール人の状況を調べながら研究を継続し、最終的には、少数民族が自らの民族を継承していくためのモデルケースを提唱したいと考えています。

合わせて、タタール語の教科書を作りたいとも思っています。まだ日本語で書かれたタタール語の教科書はないため、現在少しずつ教科書づくりを始めたいです。筑波大学でタタール語を教えたいとの希望も持っています。

最後に、私がいくつもの言語を独学でマスターできたのは、発達障害があったからだということをお伝えしたいと思います。大学院に進む前に初めて分かったのですが、一度聞いた音や言葉は忘れないのに、他の教科や日常生活が上手にいかないという積年の悩みが、診断がついたおかげですっきり解消しました。能力に激しい凸凹がある私にとって、AC入試は最適な入試でしたし、現在の私につながっていく大変貴重な第一歩となりました。

国際科学オリンピック 特別入試



世界の科学技術を リードする人材をめざして

世界中の中等教育課程にある生徒（日本では主に高校生）が参加する、世界的な科学技術コンテストである「国際科学オリンピック」。

国際科学オリンピック特別入試は、同大会に日本代表として選抜された人、代表選考などで一定の成績を収めた人が対象となる入試です。明確な目的を持って学ぶ意欲や計画的に学ぶ意欲を、従来の試験とは違う観点から評価します。

アドミッション・ポリシー

国際科学オリンピックに出場した者、またはその代表選考会等において一定の成績を収めた者を対象として、明確な目標を持って学ぶ意欲や計画的に学ぶ意欲を評価して選抜します。

国際科学オリンピック特別入試の概要

募集学類

- 生物学類 ●地球学類 ●数学類 ●物理学類 ●化学類
- 情報科学類 ●情報メディア創成学類

対象となるオリンピック

- 数学 ●化学 ●生物 ●物理 ●情報 ●地学 ●地理 ●その他*
- *情報科学類、情報メディア創成学類には、IPA「末路IT人材発掘・育成事業」採択者も応募できます。

選抜方法

エントリーシートの内容に基づいて、15分程度の個別面接により行います。
ただし、一部の学類のみ書類審査による第1次選考を行います。

各学類の出願要件は募集要項で確認してください。

【過去の実績】

	受験者数	合格者数
2018年	6人	3人
2017年	14人	7人
2016年	15人	7人
2015年	9人	4人
2014年	10人	5人
2013年	16人	7人
2012年	10人	7人
2011年	13人	9人
2010年	8人	6人

1年生から 研究できる！

先導的研究者体験プログラム[ARE]

筑波大学には、入学後も高校時代の研究を継続できる環境があります！

先導的研究者体験プログラム[ARE]は、全学群の1～3年生が応募できる研究活動支援プログラムです。研究計画書を提出し、採用されれば、研究費と研究場所が提供されます。スーパーサイエンスハイスクール（SSH）での研究活動、理科や総合的学習における自主的な課題研究など、大学入学前から科学的な研究を行ってきた人はもちろん、大学進学後には研究活動をしたいと考えていた人も、文系・理系を問わず応募してください。



AREの研究発表会の様子

【過去5年間の申請および採択件数】

	申請数	採択件数(人)
2017年度	67件	47件(49人)
2016年度	41件	41件(43人)
2015年度	45件	45件(50人)
2014年度	48件	45件(48人)
2013年度	31件	30件(32人)

詳しくはWebをご覧ください。
<http://www.esys.tsukuba.ac.jp/AC/RS>

AC入試 Q&A

Q. AC入試の選考で重視されるのはどんなことですか

A. 志願者の問題発見・解決能力を、最も重視します。

提出された自己推薦資料の内容をもとに、志願者の主体的・継続的な活動の中で、どのような問題の発見と解決があったのかを評価します。その際、活動の実績そのものを重視するのではなく、志願者がどのような工夫によってその実績を上げたのか、また、その実績をどのように認識しているのかを重視します。すなわち、結果に至る過程や、活動の「質」が重要になります。また、志願者が大学で学びたいことが、志願する学類・専門学群で学習可能か、志願先の研究教育内容と志願者の目的とが合致しているか、ということも重視します。人物評価の入試ではありません。

Q. 問題発見・解決能力のある人とは、具体的にどういう人ですか

A. 主体的な興味や関心から、自分自身の問題意識を育て、その解決に向けて独自の視点から工夫や努力を続けている人です。

例えば、物理や化学の実験、歴史の研究、生物の観察などを続ける過程で、自分自身の問題意識をもち、さまざまに工夫しながらその問題に取り組んできた人です。また、生徒会活動、課外活動、ボランティア活動などの中で独自の問題意識を育て、解決に向けて工夫を続けてきた人です。このような人には「主体的に学ぶ力」という大切な学力が備わっていると考えられます。AC入試では、志願者がそうした活動続ける中で、何をどう考え、どう行動したのかを評価します。過去の合格者の自己推薦内容はwebページでも公表しています。

<http://ac.tsukuba.ac.jp/examination/report>

Q. 出願するにはコンテストや競技会での入賞歴や何らかの資格取得、検定合格などが必要ですか

A. 必要ではありません。

AC入試は資格や実績そのものを評価する入試ではありません。資格や実績の有無にとらわれず、これまでの自分の活動（研究、課外活動、趣味など）における問題の発見と解決の過程を具体的に提示することが大切です。問題解決の過程で取得した資格や合格した検定、入賞歴などがあれば自己推薦の資料に加えることはできます。その資格や検定が自分の活動の中にどう位置づけられるのか、きちんと説明できることが大切です。ただし、体育専門学群では運動競技の実績を、他の資料とともに重視して評価します。競技の実績がまったくなければ合格はきわめて困難です。

Q. SSH※などの共同研究の成果を自己推薦に利用できますか

※スーパーサイエンスハイスクール

A. 利用してもかまいません。

ただし、その共同研究において志願者本人が担当した部分や、志願者本人の具体的な貢献を、自己推薦書の中で明確に示す必要があります。他のメンバーが担当した部分や、他のメンバーが成し遂げた問題解決とはっきりと区別して、志願者本人の問題発見・解決能力が読み取れるように提示してください。

Q. 国際科学オリンピックでの成績は評価の対象になりますか。

A. AC入試は実績そのものを評価する入試ではありません。

志願者の活動における問題発見・解決の過程を重視して評価します。一方、国際科学オリンピック特別入試は実績を重視して評価します。

Q. 高校の成績（評定平均値）は重視されますか

A. 主として、入学後、支障なく学習できるかどうかを確認するために使われます。

合格者には、結果的に成績がよい人が多くはなっていますが、出願要件ではありません。

Q. なぜ、募集時期、選考時期が早いのですか

A. AC入試は、志願者の継続的な活動における問題発見と解決の過程を評価する試験であり、試験当日の偏差値的学力を評価するわけではありません。

したがって高校3年の早い時期でも適切な選抜が可能であると考えられます。「早く進路を決めて、入学までの時間でさらに自分の勉強を進めたい」という志願者を求めているのです。また、早めの実施することで、センター試験や個別学力検査への影響を最小限にできると考えています。決して早く学生を確保することが目的ではありません。このことは、合格者数が必ずしも募集人員を充たさないことから分かるものと考えています。

Q. 必ず募集人員どおりに合格者が決まりますか

A. いいえ。

ふさわしい志願者がいないと判断した場合は、合格者が募集人員より少なくなり、欠員分は個別学力検査等（前期日程）に振り替えられます。一方、AC入試で募集人員より多く合格することもあります。その場合でも、個別学力検査等（前期日程）の募集人員が減ることはありません。

Q. 筑波大学の推薦入試等と併願できますか

A. 推薦入試や個別学力検査等（前期・後期日程）と併願できます。国際科学オリンピック特別入試、国際バカロレア特別入試とは併願できません。

国際科学オリンピック特別入試 Q&A

Q. 出願できるのはどのような人ですか？

A. 過去3年間に、国際科学オリンピックに日本代表として選抜された人や、国内予選で好成績を収めた人などです。詳しくは学生募集要項（6月下旬公表）でご確認ください。

Q. 選考で重視されるのはどんなことですか？

A. 予選や本選での成績に加え、明確な目的意識や計画的に学ぶ意欲、入学後に必要となる学習適応性などです。調査書やエントリーシート、15分程度の面接などを含めて総合的に合否を判定します。大学入試センター試験は課しません。

Q. 筑波大学の推薦入試等と併願できますか？

A. 推薦入試や個別学力検査等（前期・後期日程）と併願できます。AC入試や国際バカロレア特別入試とは併願できません。

国際バカロレア特別入試 Q&A

Q. 国際バカロレア最終試験のスコアは何点以上で合格できますか？

A. スコアだけで合否を判定しません。EE、TOK、CASの成果などに関する提出書類や、面接・口述試験と併せて総合的に判定します。

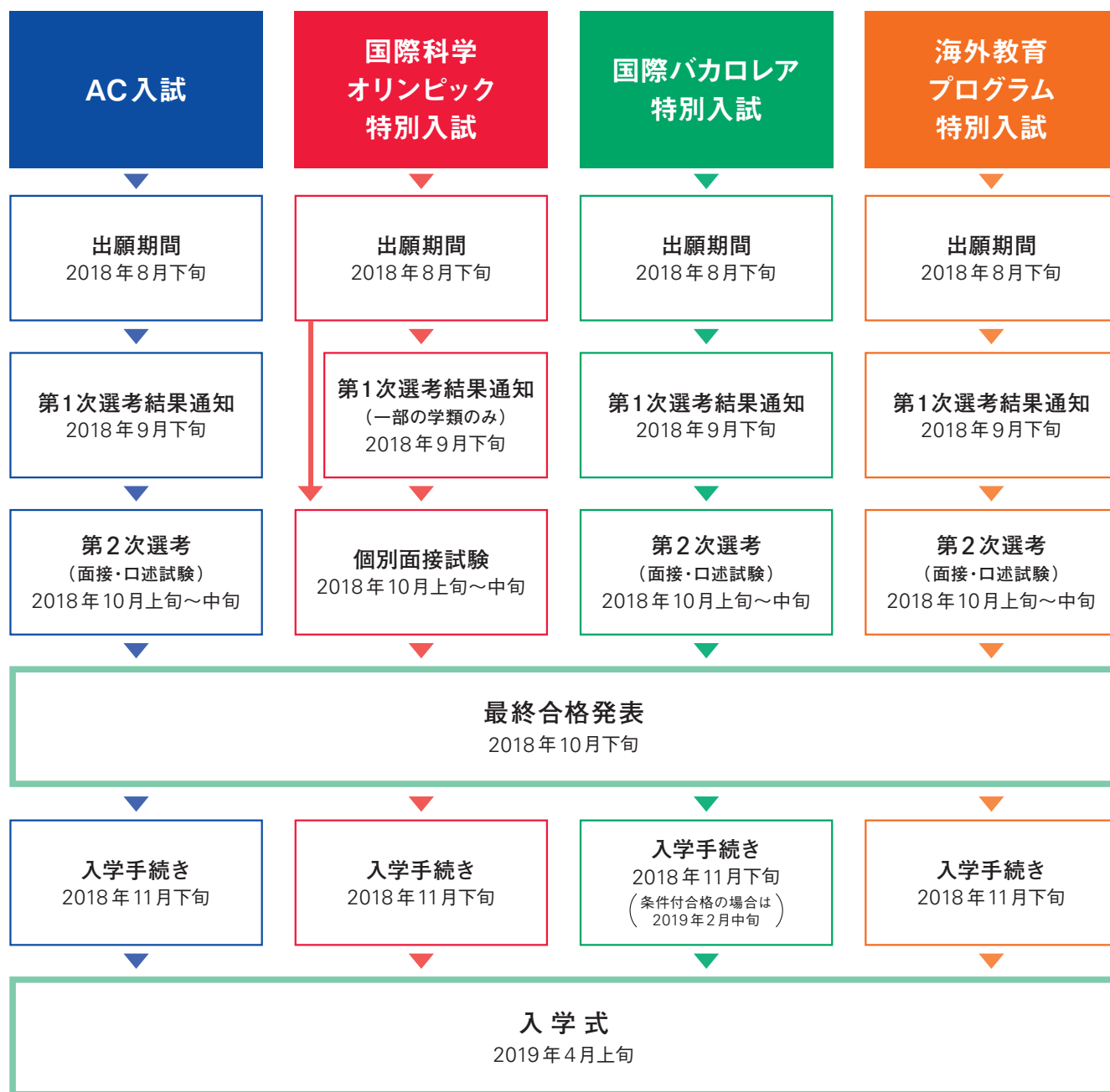
Q. TOEFL等、英語の4技能検定試験の結果も提出するのですか？

A. 英語を履修していれば必要ありません。履修していない場合の扱いは教育組織ごとに違いますが、募集要項でよく確認してください。

Q. 筑波大学の推薦入試等と併願することはできますか？

A. 推薦入試や一般入試（前期・後期日程）と併願できます。AC入試や国際科学オリンピック特別入試とは併願できません。

入学への歩み



学生募集要項の入手方法

- AC入試、国際科学オリンピック特別入試、国際バカロレア特別入試の学生募集要項(願書)は、本学のホームページからダウンロードしてください。
http://www.tsukuba.ac.jp/admission/undergrad/list_guidebooks.html
 (HOME ▶ 本学で学びたい方へ ▶ 入学案内・募集要項の一覧)
- その他、入試に関する資料の請求方法はこちらをご覧ください。
<http://www.tsukuba.ac.jp/admission/undergrad/requests.html>
 (HOME ▶ 本学で学びたい方へ ▶ 募集要項(願書)等の請求方法)

TOPICS

① 体育専門学群AC入試の 競技力型も注目!

拔群の運動技能を有し、日本代表として権威ある国際大会で活躍できる競技力を重点的に評価します。また、基礎学力と表現力についても総合的に評価します。

② 社会工学類は、 本年度よりAC入試を 実施しません。

ガイダンス・進学相談、過去の「AC入試・特別入試ガイドブック」についてはこちらで ▶ <http://ac.tsukuba.ac.jp>

国際バカロレア 特別入試



国際バカロレア
「10の学習者像」

探求心、信念をもって物事に挑戦する 若者の育成をめざして

筑波大学では、国際バカロレアにかかる活動を支援するとともに、探究心をもって主体的に学び、信念をもって物事に挑戦し、世界的に活躍できる人材を育成するための新たな入学試験として、全学で国際バカロレア特別入試を実施します。

アドミッション・ポリシー

国際バカロレア資格を取得した者を対象として、主体的に学ぶための知識や思考力、明確な目標をもって学ぶ意欲、また、語学力を含めたコミュニケーション能力などを重視して入学者を選抜します。



国際バカロレア特別入試の概要

この入試の特徴

この入試は、IBスコアだけでなく、IBのプログラムで学んだ内容にも重きを置いて、出願する教育組織への適合性をじっくり評価しようとする点に特徴があります。

出願時の提出書類にEE（課題論文）の写しと日本語要約、TOK（知識の理論）及びCAS（創造性・活動・奉仕）の成果・概要レポートを含め、そこから志願する教育組織への適合性を読み取ります（EEのテーマが、志望する分野とは無関係に、日本語で執筆することが許されている領域から選ばれていると、適合性の判断が困難になります）。

また、体育・芸術の分野では、それぞれ上記の書類に加えて、「運動特技に関する調査書」、芸術に関する作品などをまとめた資料も併せて提出します。

IBスコアも重要ですが、各学類・専門学群で学ぶために必要な適応性や、スコアでは表しきれないディプロマプログラムで養われた能力、及びこれらと各学類・専門学群での学習領域・研究分野との関連性も大切なポイントになります。

募集学群・学類、募集人員

すべての学群・学類、若干名（医学類は海外教育プログラム特別入試と併せて5名）（各募集組織のアドミッションポリシーについては募集要項で確認してください。）

出願資格

次の①～③の条件をすべて満たすものとします。

- ① スイス民法典に基づく財団法人である国際バカロレア事務局が授与する国際バカロレア資格を授与された者もしくは2019年3月31日までに授与される見込みの者で、2019年3月31日までに18歳に達するもの。

国際バカロレア資格を取得見込みで出願した者が、2019年3月31日までに国際バカロレア資格を取得できなかった場合は、合格取消となります。また、国際バカロレア資格の取得見込みで出願した者は、IB最終試験の得点によって最終的な可否を判断します。

- ② 日本語を母語とする者又は日本語を履修している者。
（日本語の履修要件については募集要項で確認してください。）
- ③ 国際バカロレア資格の取得において、本学の指定する科目を履修している者。
（具体的な科目については、募集要項で確認してください。）

選考方法

■ 第1次選考

出願時に提出された書類等により、第1次選考合格者を決定します。

IBの学習成果について、IBスコアのほか、EE、TOK及びCASの内容から、志願する学群・学類で学ぶために必要な適応性（知識・技能、思考力、表現力、当該領域・分野への関心、目的意識をもって学ぶ意欲等）等を評価します。

■ 第2次選考

第1次選考の合格者に対して面接・口述試験を行い、提出書類等の内容を含めて総合的に判定します。

面接・口述試験は、主に、出願時に提出された書類等の内容に基づいて、個別に30分程度行います。志願する学群・学類によっては、必要に応じて試験時間を延長する場合があります。

【過去の実績】

	受験者数※1	合格者数※2
2018年	21人	2人
2017年	24人	4人
2016年	13人	5人

※1 国内高校出身の受験者

● 2018年／8人 ● 2017年／8人 ● 2016年／2人

※2 合格者の出願先

- 2018年／生物資源学類、医学類
- 2017年／比較文化学類、心理学類、医学類、芸術専門学群
- 2016年／国際総合学類、物理学類、医学類、医療科学類、芸術専門学群

受験生のための筑波大学説明会

カリキュラム説明や模擬授業、施設見学なども行います。この機会にぜひ、筑波大学を体験してください。申し込み方法など詳細はホームページで6月上旬頃にお知らせします。

<http://www.tsukuba.ac.jp>

アドミッションセンター

〒305-8577 茨城県つくば市天王台1-1-1
TEL.029-853-7385 FAX.029-853-7392
<http://ac.tsukuba.ac.jp>

詳細は筑波大学
ホームページへ

筑波大学

で

検索